

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Emad M. A. Abdullatif
出身地：イラク・バクダード
所属：バクダード大学経済学部准教授
2007年8月～

初めて訪れた夢の国

イマード・M・A・アブドゥウツラティーフ

二〇〇七年八月二五日に、アジア経済研究所の海外客員研究員として私は来日した。

(中東イラクの首都である)バクダードから東京へのフライトは、かなり長く大変であった。バクダードからシリア、シリアからカタール、カタールから大阪、そして大阪から東京へと四つの便を利用した。しかし、飛行機から初めて目にした日本の景色は、長いフライトを忘れさせてくれた。美しく、どこも緑がいっぱいで、新鮮であった。天国の一部分かと思うほど、今までに見たこともない眺めであった。

東京に行くことは、私にとっては夢であった。そしてついにその夢が実現し、今や私はそこにいる。他の場所とは全く違い、東京は魅力的なところだ。そのような場所を訪れたことはなかったため、少しでも長く滞在したいと思った。

最初の一週間で私は都心を散策したり、東大島のご自宅で私のカウンターパート、福田氏とその家族の方々より歓迎を受けた。その頃は一年のうちで最も暑く、湿気のあふれる時期で、最高気温は毎日三〇度を上回った。運良く東京では、飲物が容易に手に入る。どの街角にも自動販売機があるためだ。誰もが口にするように、東京は巨大で過密都市である。代々木公園、明治神宮、新

宿の高層ビル群、皇居といった旅行者を惹きつける場所が数多く点在している。そういった場所で魅了させられるもの、不思議なもの、今までに見たこともないものを私は写真に収めた。同時に、それらは私にとって興味深く、真新しい体験でもあった。

日本に滞在する機会をただけて、私は本当に良かったと思う。さらに私は、東京の上野公園、仏教寺院、秋葉原の電気街(驚嘆させられた)、新スポットのお台場にも行くことができた。地名は覚えられなかったけれども、その他にも様々な場所を訪れることができた。

毎週金曜日に私はモスクに通う。東京には数多くのモスクがあり、私が現在知っているのは以下の二つである。一つは代々木上原にある東京ジャーミイ、もう一つは麻布十番にあり、アラブイスラーム学院によって運営されているものだ。

ところで私は、暮張本郷駅と暮張駅の間くらいのところに住んでおり、私のアパートはとても快適だ。私は毎日自転車で行く。二分ほど乗ったところにある研究所に行く。自転車に乗ることは楽しく、車のような存在でもある。東京の多くの人たちは、男性、女性、子供、お年寄りの方々を含め、自転車を使用している。そのため、東南アジア

諸国のように、日本でも自転車は重要な交通手段であると思われる。

私は自炊することもある。私の宮殿(もちろん私のアパートである)には立派なアシスタントがいる。それは炊飯器で、とても役に立っている。この魔法のような機械の存在を以前は知らなかった。

私が勤務しているアジア経済研究所には、多くの同僚や友人もいる。彼らの出身国は、もちろん日本を含め、韓国、インド、中国、ミャンマー、インドネシアと多様だ。研究所での業務は、私にとって大いに役立っている。研究所が異文化に対する多くの知識を、私たち海外客員研究員に提供してくるためだ。

この来日は私の人生のなかで、一大イベントだと思う。日本での数カ月間は、個人的な面だけではなく、研究面においても重要な意味をもつ。私の最重要目標は人々や異文化を知ったり、研究のためにあらゆる機会を利用したり、関心事に対しさらに理解を深めることだ。その点で確かに、この研究所はそれらの物事を発見できる素晴らしい場所であると断言できる。最後にこの場をお借りして、研究所に勤務されている全職員の方々に感謝の意を表したい。

(海外客員研究員/訳||相山貴史)